

WHO WATCHES THE **WATCHMEN**?

誰が  
「ウォッチメン」を  
見張るのか?

発行人●木場正博 編集人●五十嵐淳之 デザイン ●回エファイフ  
(株)角川メディアハウス 〒102-0072 東京都千代田区蔵前橋1-12-7 飯田橋センタービル8F  
ハブリック局編集企画部 03-3238-6467

アメリカの真実を“ウォッチ”せよ!

[シネコンウォーカー特別編集 「ウォッチメン」小冊子]

ウォッチメン 3.28 Sat. ROADSHOW

# 20年以上、映像化不可能とまで言われ続けた傑作グラフィック・ノベルがついに映画化!

その壮大すぎる展開と衝撃的なクライマックスゆえに、鬼才たちによる企画は頓挫し、映画会社が映画化権を争い、ハリウッドでは「映画化は無理」とされてきた問題作。不可能と言われ続けてきた物語の映画化が、ついに実現! 「300 (スリーハンドレッド)」の監督が仕かける、この20年で一番の衝撃作に震えろ!



## ウォッチメン 3/28(土)公開

NYのマンションで一人の男が突き落とされ、殺害された。事件現場を訪れた「顔のない男」は独自で捜査に乗り出し、ウォッチメンと呼ばれる者たちをねらった犯行だと疑い始める。

監督: ザック・スナイダー  
脚本: デヴィッド・ヘイター  
出演: ジャッキー・アール・ヘイリー  
(09米/パラマウント)

とで彼らの間で広まる謎。そしてメンバーが謎を追う過程で明かされる、意外な事実とは!? ブラックユーモアあふれる視点と、凝ったミステリー性、そして研ぎ澄まされた映像感覚。スナイダーはこれらを融合させることに成功。歴史の「真実」を挑発するかのような、その視点は新世代のエンタテインメントと呼ぶにふさわしい。

また本作は、ハリウッドのメジャースタジオ、ワーナーと20世紀FOXの2社が映画化権を持つことで法廷闘争へ発展し、公開さえも危ぶまれていたが、1月に晴れて和解が成立。場外でも問題作だったワケだ。

注目作であることに疑問の余地はない。「ダークナイト」(08)をしのぐとも言われる、その卓越した世界観に注目せよ!



もつ一つの歴史が明かす  
アメリカ現代史の「真実」

イギリスのカリスマ的な作家で、「フロム・ヘル」などの映画化作品で知られるアラン・ムーアが生んだ「ウォッチメン」。

JFKを表彰する賞では世界で最も権威あるヒューゴー賞にも輝いた、このグラフィック・ノベルは、かつてテリー・ギリアム、ダーレン・アロノフスキーらが映画化を試みたが、衝撃的で壮大な世界観を構築できず叶わなかった。しかし「300 (スリーハンドレッド)」(07)のザック・スナイダーの起用で企画が実現。この春、映画「ウォッチメン」がバレルを脱ぐ!

この映画はアメリカの現代史を背景にしている... といってもそれは認識されている歴史とは異なる。ベトナム戦争にアメリカが勝利し、ウォーターゲート事件は隠蔽され、ニクソン大統領が失脚していない、もう一つの歴史だ。その背後ではつねにウォッチメンと呼ばれる謎の存在があった。JFK暗殺にも、アポロ計画にも...。映画の始まりは1985年。ウォッチメンのメンバーが殺害されたこ

# ウォッチメンだけが知る アメリカの真実

現代社会においてアメリカ合衆国ほど、歴史的な事件で世界へ多大な影響を及ぼしてきた国はないだろう。その歴史的な事件に、実は介入者がいたとしたら？ 本作は「通説」とは異なる視点から、その謎をあぶり出す。



## ベトナム戦争へ介入 アメリカの勝利を 呼び込む

第二次インドシナ戦争とも呼ばれるベトナムの南北統一を巡る紛争。アメリカは共産主義拡大を阻止すべく南ベトナムを支援したが、長期化で泥沼化する戦いにニクソンは全面撤退を決断。だが映画では、ウォッチメンがアメリカに勝利をもたらす。ならば、イラク戦争でも無益な血は流れなかったのではないだろうか？



## 公表されず 闇の中へ葬られた ウォーターゲート事件

1970年代に起きたアメリカ最大の政治スキャンダル。ニクソン元大統領は民主党本部ビルでの盗聴事件に関与したとして任期中に辞任した。だが、この映画では辞任どころか、任期を延ばし権力を握り続ける。ウォッチメンが事件の公表を阻止したのなら、いったいなぜ？ それが国民にもたらした結果とは…？



## 人類初の月面着陸 アポロ計画にも 陰から関与

1969年7月20日、宇宙船アポロ11号が実現させた人類初の月面着陸。アメリカとソ連との宇宙開発競争とも言われ、莫大な費用を投じたこの計画は、いまでも捏造説が出るほどのプロジェクト。これもウォッチメンが手助けしたという。もしそれが事実ならば、人類は21世紀に入っても結局、自力で宇宙へ羽ばたけないということか？



## JFK暗殺の 真犯人を 知っていた？

1963年11月22日、テキサス州ダラスで起きた、JFK暗殺事件。事件の真相は、容疑者(とされた)ジャック・ハーヴェイ・オズワルドが殺されたことで闇に葬られた。だが、ウォッチメンの一人が政府の特務機関員として、暗殺に関与した事実が明らかに。ならば、すでにオバマ暗殺計画が続けられている可能性も、この世界ではありえる？

事実と虚構の交錯が  
病める現代をあぶり出す

「ウォッチメン」は、一人の男の暗殺から、1980年代より遡って40年間の、アメリカ合衆国の歴史が描かれる。ただ、その設定について一つの疑問がある。ブッシュの負の遺産、金融政策や武力介入の失敗で生活は貧窮し、銃乱射やテロへ結び付き、新風、オバマ大統領でさえ、それこそJFKの如く銃撃される恐れを抱えるこの、病める現代。に作品の時代設定を置き換えたほうが、人々が抱く怒りや不満が見えてくるのでは？

監督のザック・スナイダーも「現代風に、対テロ戦争の話へアレンジしてほしいと、ワーナーに言われたんだ」と話す。だが、それを彼は拒否した。「原作を改めて読み、現代風にするより原作の世界観を生かした方が、より現代がクリアに見える」と確信したんだと。ここが、「ウォッチメン」最大のポイントと言っても過言ではない。本作中のアメリカは、ニクソン大統領が任期を延ばし、権力を欲しいままにする1980年代。なぜウォッチメンだった男

は殺されたのか。その謎をストーリーの軸に描かれるのは、ウォッチメンが介入した。もう一つのアメリカ。に見る、人々が抱くアメリカの真実である。

物語はフィクションだが、劇中に登場する歴史的な事件の数々。それどころかJFK暗殺、ベトナム戦争、キューバ危機、アポロ計画など、いまでも語られる事件にウォッチメンを絡ませ、その背後の真実、きなくさを抱かせる。さらにウォッチメンの自警活動を禁止する条例や、マスコミ批判、政治に絡むウォッチメンへの市民感情などをディテールとして重ねること、ウォッチメンがアメリカ国民にとってリアルな存在となる。アメリカの隠れた真実、に迫っていく錯覚さえ感じさせられるのだ。ここまで描かれると、1980年代の物語でも、先日起きたハドソン川の奇跡でさえ、ウォッチメンが介入したと、スツと思いつめ込めさえるだろう。サスペンス・ミステリーという娯楽であると同時に、重厚な社会派ドラマの味わい深さ――。

原作が、2005年にアメリカのタイムマガジンが発表した歴代小説(1)ベスト1000に選ばれたのも納得の緻密さだ。

# 次々と消されていくヒーローたち

政府が1977年に禁止するまで、平和を守り続けたウォッチメンたち。コメディアン殺害から始まり、彼らが何者かに追い詰められていく…。

事件を追う顔のない男

## ロールシャッハ

つねに左右対称の模様＝ロールシャッハのマスクをかぶっているため、その素顔を知らぬものは一人としていない。コメディアン殺害の裏側に不穏な動きを感じ取り、事件の真相を探るべく、独自に捜査を開始する。

シニカルな自己中心主義者

## エドワード・ブレイク

別名：コメディアン

胸にスマイルマークを付けた、ウォッチメンのなかでも最も活動的なヒーロー。ベトナム戦争などに従軍し、アメリカに勝利をもたらした。暴力的かつ屈強な彼を殺害した人間は、いったい誰なのか？ また、その理由は？

沈着冷静な発明家

## ダン・ドライバーク

別名：ナイトオウル

かつて自ら発明したメカを駆使して自覚活動をしていたが、政府に禁止されてからは活動を休止。コメディアン殺害は、「ウォッチメン」をねらう人間の仕業だとロールシャッハに言われ、不安をつのらせる。

自他ともに認める世界一の天才

## エイドリアン・ヴェイト

別名：オジマンディアス

アレキサンダー大王の人生と自分を重ね合わせ、ウォッチメンだったころはオジマンディアスと名乗った。数年間の活動後、正体を明かして莫大な資産を築き上げた。彼の天才的な頭脳が、事件解決のカギを握る…？

出生に謎を抱える女性

## ローリー・ジュスペクツィク

別名：シルク・スペクター

母親もウォッチメンとして活躍しており、母親の過去などが彼女自身にも影響を及ぼす。父親の存在は母親からいまだに明かされていない。DR.マンハッタンと特別な政府機関で、2人きりの孤立した生活を続けている。

アメリカ政府が認める謎の人物

## ジョン・オスターマン

別名：DR.マンハッタン

1950年代後半、科学実験の事故に遭い肉体が崩壊するが、復活。その後、DR.マンハッタンとしてウォッチメンに。政府機関での活動に従事していたが、何者かの陰謀により悪に仕立て上げられたため、一時的に身を隠している。

## 「ダークナイト」以上にえぐられる真実

作品のバックボーンとなる数々の歴史的事件、フィクションであり、その出来事に懸された真実がさらされることで、正義や政治のあり方自体が疑問視される。ゴッサムシティという架空の街でその問題を突き詰めた傑作「ダークナイト」以上に、「ウォッチメン」はリアルで濃密に、アメリカという国家全体を揺さぶる問題作だ。



ジョーカーが人間の闇の部分をあぶりだした「ダークナイト」

単純明快・勧善懲悪な英雄伝的な要素など、本作には微塵も存在しないのだ。ビジュアルも、異才ザック・スナイダーの下、最新デジタル技術の粋を集めて創造された、緻密&大胆な見せ場がスクリーンに広がる！

「セブン」(95)を超えるミステリー性と、「ウォンテッド」(08)を凌駕するビジュアル、そして「ダークナイト」(08)さえも霞むインパクトを備えた「ウォッチメン」が、この春、映画界に革命を起こす！

# 映画界に革命を起こす 圧倒的なクオリティ

「ウォッチメン」はエンタテインメント作品としても秀逸。常識の範疇には収まり切らない、英雄たちの間、葛藤、そして存在自体を巡る謎が、圧倒的な映像で描かれる。それらの要素を、過去の傑作映画を実例に検証する。

## 「ウォンテッド」以上に革新的な映像

ザック・スナイダーが観る者をアッと叫ばせる映像作りで、希代のクリエイターが力を発揮。強烈な光に包まれる都市、すさまじい爆発の中でキスを交わすウォッチメン…。VFXをフル投入しつつもスローモーションを効果的に活かした鮮烈映像は、それと近い手法で昨年注目を浴びた「ウォンテッド」を超える映像革命を起こす！



革新的な映像世界で「ウォンテッド」を超える衝撃を与える！

## 「セブン」以上に謎めくミステリー

人類を見守ってきたウォッチメンは、なぜ殺されたのか？ 彼らを殺した犯人は？ そもそもウォッチメンとは？ そして大統領も恐れる陰謀とは…？ 数々の伏線が物語中に張り巡らされ、さらに巨大な謎が浮かぶ。「7つの大罪」に謎をかけて衝撃の結末へと導いた「セブン」よりも多層的なミステリーが、尋常ならぬスリルを生む。



不可解な殺人から予想外の展開が始まる場所に、共通点がある

深いテーマと斬新な設定を圧倒的なビジュアルで描く

「シン・シティ」(05)「Vフォー・ヴェンデッタ」(06)などのようにグラフィック・ノベルが原作。描かれるのは「アイ・アム・レジェンド」(07)や「地球が静止する日」(08)のように、謎を含みつつ展開される世界規模の危機、そして、それに対峙する者たち。「ウォッチメン」は、昨今の話題作の2大トレンドともいえる要素がブチ込まれている。だが、この映画はそういった脈絡で語れる「型」にハマった作品ではない。ストーリーからビジュアルにいたるまであらゆる点で深遠な、従来ではありえなかつたクオリティを備えたエンタテインメント作品なのだ。

本作の重要人物は、ケネディ暗殺やベトナム戦争など歴史的な事件に関与してきた異能の存在ウォッチメン。彼らの一人が殺されるという想定外のイントロから、謎が次々と積み重ねられる。やがてロールシャッハが謎を引き出すことで、驚愕の結末と深遠なテーマが見える――。

ミステリアスにして、極めてドラマチック。従来描かれてきた